

年々意識は向上しているのですが。

——そこで意識していることは?

大野 やはり信頼でしょうか。一人ひとり把握して、的確な声かけをしてあげることだと思いますね。

甲能 堀ヶ谷高校では、近藤先生(隆行氏)がメインで指導されているので、おかげで選手として活動させてもらっています。これまで、石幡先生や森田先生、須釜先生(久之氏・伊奈学園総合高校サッカー部顧問)の指導を見て、学ばせてもらいました。思うに、生徒が見据えた目標を達成できるよう手助けしてあげる存在であればいいのかなと思っています。

大野 そう、サッカーが好きで、生活の中に

サッカーがあることが楽しい、サッカーを続けたいという生徒を育てたいですね。やる気があれば自主練習にもつきあいますし、そういう環境を与えたいですね。

甲能 僕自身、サッカーが楽しいから今まで続けています。楽しさを感じてもらえたたらこの先も続けてくれるでしょうし、将来的には指導者にもつながると思いますね。

——現役選手としてお聞きしますが、仕事をしながら続けることは大変ですか?

甲能 僕はまだ独身なので難しくないです。ただ、学校の皆さんの協力がなければ活動できません。感謝しています。また、学校外でも大先輩方が気にかけていただいている。

この年齢になつても真剣勝負ができる人はなかなかいないと思います。そういう楽しさはありますね。サッカー好きが集まつて、サッカーができる水曜、土曜、日曜が一番の楽しみです。本当は毎日トレーニングしたいくらいですから。

大野 元々は埼玉教員クラブであり、これまでのOBの皆さんのが頑張られたおかげでここまで来ていることを感謝したいと思います。また、そういう皆さんと同じ埼玉の指導者という立場でも応援してくださることはありがたいことです。この期待に応えたいですね。

実際続けるとなると、大変なことです。部活もありますし、私であれば家庭もあります。奥さんにも感謝です。また、チームには三郷高校OBもいて、私が多忙のときにはチームの面倒を見てくれています。私には大事な存在です。いろいろな方々に頭を下げながら、あと何年できるかわかりませんが、行けるところまでやりたいですね。この年齢になつても、少しづつ成長できている自分を感じるうれしいものです。体力的につらいときもありますけど(苦笑)、その中でプレーを選択できるようになるのも楽しいものです。

——なるほど。では、最後に高校サッカーの後輩たちにメッセージをいただけますか。

大野 自分の限界を決めないで、高い目標を持つてほしいと思います。今は、様々な形で選手として受けられる受け皿があります。続けることで、自分の能力が開花することもありますから、ぜひチャレンジ続けてほしいと思います。また、その受け皿の一つには「さいたまSC」があります。一緒に頑張りたいという思いを持ってくれれば、うれしいですね。また、そこからプロに飛び立つてくれれば、それもうれしいことです。もちろん、僕らとしても、これまでの伝統を引き継ぎながらも「F」で戦えるチームになっていきたいと思っています。



平成19年度 彩の国カップ 決勝



第34回全国地域リーグ決勝大会

甲能 まずはサッカーを好きでいてほしいですね。そして、熱い心を全面に押し出してプレーしてほしいと思います。サッカーの楽しさを、勝ちたいという気持ちを、もっと全面に出していくと思うのです。その中で激しい戦いをしてほしいし、その激しい戦いと一緒にできたら、と思います。

僕なんて上手くないです。若手の選手のほうが上手いです(苦笑)。でも、僕は彼らには負ける気がしません。情熱を持った人に入ってきてもらいたいですね。

地域リーグ決勝大会の直前に話を聞かせてもらつたが、二人からは今よりも高いステージに向かつて挑戦することが楽しいと話をしてもらつた。きみたちの高いステージは何だろうか? 卒業してもサッカーを続けるという意志を持った上で、「さいたまSC」を選択肢の一つに考えてほしい。JFLを戦うのは、きみたちかもしれないのだから。

セントラルリーグで戦つたが、二人からは今よりも高いステージに向かつて挑戦することが楽しいと話をしてもらつた。きみたちの高いステージは何だろうか? 卒業してもサッカーを続けるという意志を持った上で、「さいたまSC」を選択肢の一つに考えてほしい。JFLを